

富国強兵を目指して①

～新しい価値観の下で～

～授業の準備～

必要に応じてノートを取り、自分の考えを書いたり、教科書にマーカーをしたりしながら進めると良いでしょう。スライド中の**赤文字**は特に重要な語句です。最後の方にノート(板書)例もあります。

次のものを用意しましょう。(すべて歴史)

教科書 **資料集** **ノート**(昨年度の続き)

筆記用具(色ペンやマーカー含む)

～前回までの確認～

日本を欧米諸国に負けない強い国にするため、新政府によって**明治維新**と呼ばれる一連の改革が始まりました。強力な(権力を集約した)中央政府が、先進的な欧米に習いつつ、日本の近代化を推し進めていくこととなります。引き続き、様々な政策が打ち出されていきます。

さて、そんな新政府が近代的な国づくりを目指す上で掲げたスローガンが、

「富国強兵」です。

ふ こ く き ょ う へ い

富_レ国 強_レ兵

すなわち「国を富ませ、兵を強くする」ということ。国を豊かにして力をつけ、強い軍隊を持つのだという意味が込められています。それでは今回の学習課題です。

<学習課題>

富国強兵を実現するために、どのような政策が行われたのだろうか？

富国強兵政策の4つの柱

1. 地租改正

2. 殖産興業

3. 徴兵令

4. 学制

これらを順番に見ていきましょう。

(今回は1と2について)

1. 地租改正（1973年）

これは税制の改革です。新政府は様々な政策を実行するために、安定した歳入（毎年度の収入）を確保する必要がありました。内容は以下。

- 教科書P161及び資料集P117参照
- 土地の面積を調査し、**地価**（土地の値段）を定め、その土地の所有者に**地券**（証明書）を発行する。
- 土地所有者に**地租**（土地税）を課す。
- 税率は**地価の3%**で、**現金**で納めることとする。
- 土地の売買は自由とする。

Q. この地租改正を農民たちは歓迎したのでしょうか？

例えば、

負担は軽くなったのか。みんな土地を持つ自作農になれたのか。

《参考として復習》

- 江戸時代、基本的な土地税といえば米で納める年貢。
- 年貢の税率は収穫のおよそ50%。
(四公六民とか五公五民という言葉がありました。)
- 地主に土地を借りて耕作を行う小作人もいた。

実は、負担はさほど変わりませんでした。

- 「地価の3%」の「地価」が非常に高く設定された！
(大したことない土地でも)
- 年貢とは違い、農作物を売ってお金に換えて納めなければならない。
- 地租の負担に耐えられない農民
→ 自分の土地を手放す(売る)ことに...

Q. その時、地主は土地を高く買う？
それとも安く買う？

当然、安く買おうとするでしょう。

売る側はそれでも売るのでしょうか？

おそらく売るしかないでしょう。

ちなみに、

そもそも地租改正以前より小作人だった人は・・・

→自分の土地は手に入らず(自作農にはなれず)。

そういうわけで、新政府に期待していた農民たちには不満が残りました。地租改正に反対する一揆も起こり、政府は1877年に地租を3%から2.5%に引き下げました。

それでも地租改正により、米の収穫量に左右されない一定の税収が得られることになりました。こうして政府は新たな財源を様々な政策に利用していくこととなります。その1つが「殖産興業」です。内容をつなげていきましょう。

2. 殖産興業

- 教科書P160参照
- 意味は「生産を殖^(ふ)やし、産業を興^(おこ)す」。
- これもスローガンのようなもので、つまり工業分野を中心に様々な産業を発展させようということ。
- お雇い外国人の力を借りて、先進的な技術や機械を取り入れた。
- 他にも電信、郵便制度、鉄道などの利用が始まった。

官営工場*

それでは、新政府が力を入れた工業について、もう少し見てみましょう。殖産興業政策の中で、政府が近代的な工場のモデルとして作った官営工場の1つが、群馬県にある**富岡製糸場**です。もちろん今は操業していませんが、2014年に世界文化遺産に登録されました。

(教科書P160上の絵)

* 官営＝国営。国が設置・管理して営むこと。

そして政府は、各地に作った官営工場をある程度運営した後、民間に売り出しました。

(民間とは、国や県の政府などのような公共の存在ではない一般のこと)

Q. 政府はその時、工場をつくる費用としてかかった金額より高く売ったのでしょうか、それとも安く売ったのでしょうか？

正解は「安く売った」です。

なぜかという、まだ民間の企業が弱いから（経営的な意味で）。つまり日本の企業を育てる目的があったのです。ただし、かなり安く売ったとはいえ、もちろん相当お金持ちでないと買えません。

そのようにして、徐々に色々な工場が民間で経営されていくようになりました。

ところで、機械があるといっても工場を動かすには不可欠なものがあります。

そう、労働力です。この働き手は、どう確保したのでしょうか？

ちょうど良い労働者となりそうな人はいませんか？

（先ほどの地租改正を思い出しましょう。）

そうです。土地を失った農民がいます。

土地を持たない農民は、小作人になったり、
または工場に労働者として吸収されていったり
したわけです。賃金が安く設定されても働かざ
るを得ないでしょう。

今回扱った政策について、問題を出しておきます。

- 地租改正や殖産興業の政策で、良い思いをした人・苦しい思いをした人は、それぞれどんな人か？
- 新政府のやり方は、日本をどんな社会へ導くか？
(地主や企業家という資本家が出て、労働者がいて、企業の利潤の追求によって経済を豊かにする)
- あなたは、これらの政策をどう評価するか？
(良い・悪い・両面？ **富国強兵につながると思うか？**)

これらの問いについて考えることで、さらに理解が深まると思います。

～終わりに～

こうして、税金の制度が固まり、産業の育成が進んでいくことになりました。次回は、富国強兵に関するひと続きの内容として、残りの徴兵制と学制について扱います。

<学習課題>

富国強兵を実現するために、どのような政策が行われたのだろうか？

～ノート(板書)例～

〔富国強兵を目指して①〕

→日本を欧米に負けない強い国に！

富国強兵を実現するために、どのような政策が行われたのだろうか？

1873年 **地租改正**
＝地価の3%を現金で

地価が高い！

土地を手放す農民

- Q. 地主は高く買う？安く買う？
→安く買う(少しでも得を)
→農民たちは売らざるを得ない

このお金を使って

殖産興業

→ 官営工場

ex.富岡製糸場

売り出す(安く)

民間で経営

工場労働者に
(安い労働力)

小作人に

- Q. これらの政策で良い思いをした人・苦しい思いをした人は？
Q. これらの政策は日本をどんな社会に導くか？
Q. あなたはこれらの政策をどう評価するか？